

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和8年4月14日(火)

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

大原小学校

1 国語科

(1) 結果の概要と問題内容別正答率

2年	聞き取り	漢字を読む	漢字を書く	言葉の学習	物語文読解	説明文読解	見たことを発表する	文章を書く	考察と具体的課題
正答率	88.0	94.9	94.9	90.3	62.4	85.5	48.7	76.9	全ての項目で全国平均を上回る結果となった。特に「聞き取り」「説明文読解」「文章を書く」では10%程度上回る結果となった。「文章を書く」での無答率は15.4%であった。
全国平均	77.1	90.5	94.1	82.7	58.2	70.5	41.2	67.7	
増減	10.9	4.4	0.8	7.6	4.2	15.0	7.5	9.2	
3年	聞き取り	漢字を読む	漢字を書く	言葉の学習	物語文読解	説明文読解	お礼の手紙を書く	文章を書く	考察と具体的課題
正答率	85.6	96.4	84.7	81.1	79.3	73.0	45.9	73.9	全ての項目で全国平均を上回るか同程度の結果となった。特に「聞き取り」「言葉の学習」「物語文読解」は10%程度上回っていた。「文章を書く」での無答率は16.2%であった。
全国平均	76.5	89.3	78.9	71.8	68.8	73.4	41.6	72.8	
増減	9.1	7.1	5.8	9.3	10.5		4.3	1.1	
4年	聞き取り	漢字を読む	漢字を書く	言葉の学習	物語文読解	説明文読解	調べたことをもとに文章を書く	文章を書く	考察と具体的課題
正答率	87.9	95.4	69.0	72.0	81.6	67.8	56.0	61.2	全ての項目で、全国平均を上回る結果となった。特に「物語文読解」「説明文読解」「調べたことをもとに文章を書く」の項目では10%以上も上回っていた。「文章を書く」での無答率は22.4%であった。
全国平均	85.8	90.2	68.0	66.4	65.0	52.9	44.3	61.0	
増減	2.1	5.2	1.0	5.6	16.6	14.9	11.7	0.2	
5年	聞き取り	漢字を読む	漢字を書く	言葉の学習	物語文読解	説明文読解	インタビューをする	文章を書く	考察と具体的課題
正答率	83.3	96.1	59.8	66.5	74.5	54.9	33.8	50.0	「漢字を書く」「説明文読解」「インタビューをする」「文章を書く」の項目で、全国平均を下回る結果となった。特に「文章を書く」の項目で全国平均を大幅に下回る結果となった。「文章を書く」における無答率は32.5%であったため、問題に取りかかる時間がなかった可能性がある。日常の授業においても、時間設定を明確にし、見通しをもちながら課題に取り組むことができるようにする。
全国平均	74.9	87.5	62.7	63.8	74.0	58.8	39.1	62.8	
増減	8.4	8.6		2.7	0.5				
6年	聞き取り	漢字を読む	漢字を書く	言葉の学習	物語文読解	説明文読解	報告する文章を書く	文章を書く	考察と具体的課題
正答率	80.2	91.9	67.6	64.9	73.9	62.2	50.0	67.6	「報告する文章を書く」以外は全国平均を上回る結果となった。特に「聞き取り」「漢字を書く」「文章を書く」では10%程度全国平均を上回ることができた。「文章を書く」における無答率も10.8%で最後まで問題に取り組むことができていた様子が見えた。
全国平均	70.2	86.9	53.4	56.4	68.0	55.0	56.0	50.6	
増減	10.0	5.0	14.2	8.5	5.9	7.2		17.0	

(2) 課題の原因として考えられること

昨年度に比べ、国語科の正答率がどの学年も全体的に上がった。特に、昨年度多くの学年で課題だった「漢字を書く」「文章を書く」の正答率が上がっていたのは、昨年度の結果を踏まえ、教師が基礎タイムや放課後学習を活用して漢字指導をしてきたことや、週1回の校長先生による日記指導に取り組んだことがも定着につながる要因となったと考えられる。「文章を書く」の無答率も昨年度より全学年下がった。また、昨年度より校内研究を国語科「読むこと」の領域で行い、反映させ、日々の授業改善を図ったことも学力向上へとつながったと考えられる。

取り組む場面	方策
基礎タイム	・新出漢字を使った熟語を児童が読む機会を繰り返し設定したり、辞書引きをしったりして語彙を増やしていく。 ・漢字小テストを定期的に実施する。 ・週1回の日記に継続的に取り組む。その際、漢字を使って書くように指導したり、2段落構成にして書く内容を指定したりする。 ・高学年では、新聞を読んで自分の考えや感想を書く時間を設ける。
授業	・「書く」領域の単元では、児童も教師も「この単元で身に付けさせたい力」を明確にして学習を進めていく。個に応じた手立てを講じながら、自分で書くことができるよう授業展開を工夫していく。 ・自分の考えをノート等を書く機会を授業中に効果的に設け、手書きで自分の考えを表現する機会を増やす。 ・タブレットの有効活用を模索する。交流時や推敲時にはタブレットは効果的ではあるが、紙に鉛筆で文字を書くことを国語の学習で基本とする。 ・グループやペアなど様々な学習形態を効果的に取り入れることで、自分の考えをもち、発話する機会を増やす。 ・見通しをもって学習に取り組むことができるように学習計画を立てたり、自分の学びを実感できるように振り返りを書く時間を設けたりして、主体的に学習に取り組むことができるようにする。
家庭学習	・効果的な漢字学習を行い、新出漢字の定着を図る。 ・高学年においては、自主学習を通して苦手なところや課題点を復習できるようにする。

2 社会科

(1) 結果の概要と問題内容別正答率

4年	市の様子	工場の仕事	買い物調べ	店ではたらく人	安全なくらし(火事)	安全なくらし(事故や事件)	市の様子や移り変わり	くらしの移り変わり	考察と具体的課題
正答率	81.0	74.1	77.6	68.1	65.9	59.1	48.9	73.6	「安全なくらし」「くらしの移り変わり」の領域において、全国平均を下回る結果となった。原因として、社会科の基礎的な知識の定着に加え、資料から必要な情報を読み取り、それを既習事項と関連付けて考える力に課題があると考えられる。また資料から、結論を読み取る問題に対する正答率が著しく低いので今後指導を継続していく。
全国平均	74.5	71.3	72.7	59.7	63.7	64.0	45.6	76.6	
増減	6.5	2.8	4.9	8.4	2.2	-4.9	3.3	-3.0	

5年	都道府県の様子	くらしを支える水	ごみの処理と利用	自然災害からくらしを守る	先人の働き	特色ある地域の様子	考察と具体的課題
正答率	64.6	58.5	59.0	73.3	48.3	65.0	全ての項目において全国平均を下回っており、社会科の基礎的な知識の定着と資料を読み取る力双方に課題が見られる。特に「特色ある地域の様子」「くらしを支える水」「ごみの処理と利用」では全国平均との差が大きい。地図や資料から情報を読み取り、それを既習の知識と結び付けて説明する力が十分にみについていないことが考えられる。自分たちの生活と社会の仕組みを関連付けて理解する力が求められる。既習事項を活用して資料を読み解く力も必要である。
全国平均	66.6	65.3	65.5	77.9	52.3	72.3	
増減	-2.0	-6.8	-6.5	-4.6	-4.0	-7.3	

6年	世界の中の国土	日本の国土と人々の暮らし	日本の農業	日本の水産業	日本の食料生産	自動車をつくる工業	日本の工業生産	情報を生かした産業	自然環境と国民生活	考察と具体的課題
正答率	63.1	73.0	68.9	51.4	58.8	75.7	48.6	75.7	59.5	「日本の農業」「世界の中の国土」などで全国平均を大きく下回っており、社会科の基礎的・基本的な知識の定着に課題が見られる。単に知識を覚えるだけでなく、資料から情報を読み取り、既習事項と関連付けて社会的事象を捉える力を育てる。
全国平均	71.1	72.8	78.8	53.5	63.6	78.6	52.2	75.7	65.4	
増減	-8.0	0.2	-9.9	-2.1	-4.8	-2.9	-3.6	0.0	-5.9	

(2) 課題の原因として考えられること

学年が上がるにつれて、学習内容の定着や既習事項を活用する力に課題が見られる。社会科における基礎的・基本的な知識を継続して振り返る機会が十分でないことが考えられる。また資料を見る際に、「何に注目して読み取るのか」という視点が明確になっていない。まとめられた複数の資料をもとに、正しく説明されている記号を選ぶ問題が苦手な傾向がある。資料の読み取りや要点を捉える力が弱いと考える。

(3) 課題解決に向けた方策(取組指標)

取り組む場面	方策
授業	・資料を読み取る手順を明確に指導する →「何の資料か→何が変化しているのか→その理由は何か」の順で読み取る活動を繰り返す行う。 ・まとめられた複数の資料に何が書かれているかを読み取る力をつけるために →単元のまとめの新聞作りなどの際に、友達のまとめから、何が分かったかなどを振り返る活動を設けることで、他者のまとめから何を伝えたいのかを読み取る力を育てていく。 ・社会的用語や基礎知識の定着のために →授業導入時に前時までの学習を確認し、新しい内容と結び付けたり、キーワードや重要語句を整理する時間を設けたりする。また家庭学習で取り組むなど、授業時間以外の時間も確保することで定着に繋がる。 ・資料を根拠に説明する活動を充実させる →「資料の〇〇から、△△だと考えられる。」という表現をくり返し使わせる。ペアやグループで説明し合う活動を取り入れる。 ・複数の資料を関連付ける活動を取り入れる →地図と写真、年表とグラフなどを比較し、「共通点・相違点」を考えさせる。

3 算数科

(1) 結果の概要と問題内容別正答率

2年	120までの数	たし算	ひき算	3つの数の計算	かたち	長さ・かさ	時計	えをつかったグラフ	考察と具体的課題
正答率	88.9	81.4	88.6	91.0	74.4	98.7	94.9	97.4	全ての単元で全国平均を上回ったが、単元による全国平均の増減は幅がある。全国平均より「たし算」と「時計」はかなり上回っているが、「120までの数」は全国平均よりわずかに上回っている。「10のいくつ分」など、数の構成要素の問題理解がまだ出ていないことが推測されるので、問題の読み取り方と、数の規則についての演習を重ねていく必要がある。
全国平均	86.7	66.3	77.8	85.0	60.7	92.2	82.6	91.3	
増減	2.2	15.1	10.8	6.0	13.7	6.5	12.3	6.1	

3年	1万までの数・分数	たし算・ひき算	かけ算	三角形と四角形	はこの形	長さ・かさ	時とくとき時間	ひょうやグラフ	考察と具体的課題
正答率	72.4	77.0	90.8	86.5	87.8	75.1	82.4	82.4	全国平均よりも上回る結果となり、特に「かけ算」と「時とくとき時間」は全国平均より10%以上上回っている。かけ算は九九の習熟が定着している故と考えるが、その前の「たし算・ひき算」の正答率がかけ算よりかなり低いのが課題である。基本の四則計算がバランスよく身に付くよう、日々の繰り返し学習をすすめる。
全国平均	65.0	75.6	80.8	77.0	82.6	73.1	71.4	78.4	
増減	7.4	1.4	10.0	9.5	5.6	2.0	11.0	4.0	

4年	大きい数・小数・分数	たし算・ひき算	かけ算	わり算	口を使った式	円と球・三角形	長さ・重さ	時とくとき時間	表とぼうグラフ	考察と具体的課題
正答率	79.3	77.6	66.1	71.6	79.9	63.8	85.6	83.9	81.0	「たし算・ひき算」と「かけ算」が全国平均よりわずかに下回ったが、全体的には全国平均とほぼ同等の結果となっている。計算については、一つの計算のやり方をやっている、他の計算の仕方がわからなくなってしまうことがみられるので、日々の学習の中で前年度までの四則計算の復習を繰り返し指導していく必要がある。図形や記述を要する内容では演習問題を多く設けて、より高い学力がつくようにする。
全国平均	74.8	77.7	66.2	66.4	72.9	60.9	80.5	79.6	70.0	
増減	4.5	-0.1	-0.1	5.2	7.0	2.9	5.1	4.3	11.0	

5年	億と兆・がいの数の表し方	わり算・計算のきまり	小数	分数	いろいろな形	面積	角の大きさ	変わり方調べ	簡単な場合についての割合	折れ線グラフと表	考察と具体的課題
正答率	63.3	53.3	59.2	65.0	52.5	33.8	65.0	52.5	64.2	43.1	1つの単元を除き、全国平均を下回る正答率となった。「いろいろな形」「角の大きさ」などの図形と「変わり方調べ」での数量に課題が大きい。図形については、三角定規や分度器の使い方の習熟とともに、問題の意味の理解をより深める必要がある。数量についても、問題の読み取りができない故に計算の仕方を間違えていることが考えられる。算数での問題の言葉の読み取りにより時間をかけ、思考力を高めていく。また、グラフや表の読みとりも課題があるので、グラフなどにより慣れさせる時間を設け、読み取りを正確にできるようにする。基本の四則計算、特に小数での計算の時間も日々の学習に組み込む。
全国平均	63.8	56.0	64.9	59.9	63.0	40.0	80.2	71.2	65.4	52.9	
増減	-0.5	-2.7	-5.7	5.1	-10.5	-6.2	-15.2	-18.7	-1.2	-9.8	

6年	整数のなかま分け	分数と小数	小数の計算	分数の計算	多角形と円・合同	面積	立体と体積	比例・単位量あたりの大きさ	割合	円グラフや棒グラフ・平均	考察と具体的課題
正答率	54.1	78.4	66.9	83.8	81.1	79.7	77.0	72.3	75.7	48.6	全体的に全国平均をやや上回っており、「分数の計算」は13.4%上回った。しかし、「比例・単位量あたりの大きさ」は全国平均をわずかに上回っているだけである。数量より数量を推測する力をさらにつけるため、問題の読み取り方と、どの数量からどの数量をどのように計算するか、の判断力をより身に付ける必要がある。「円グラフ」などの図形内容も、その読み取り、問題理解、図や表の書き方の習熟が課題である。
全国平均	47.4	75.8	63.8	70.4	77.9	70.7	74.6	70.9	68.3	48.4	
増減	6.7	2.6	3.1	13.4	3.2	9.0	2.4	1.4	7.4	0.2	

(2) 課題の原因として考えられること

全体として、問題の読み取る力が弱く、立式の時点で間違ってしまうことが多いこと、図や表の読み取りが弱いことが大きいと考える。また、単元ごとのワークテストを終えて次の単元に移ると、前単元の内容を忘れてしまうことや、いろいろな単元内容が出てくる学力調査のような問題に慣れていないことも課題の原因と考える。立式、計算の公式を覚えるだけでなく、その意味を自分の言葉でしっかりと説明できること、図を使って問題や式を説明する場をより設け、内容理解を深める必要がある。

(3) 課題解決に向けた方策（取組指標）

取り組む場面	方策
基礎タイム	・全学年を通して、その時に学習している単元内容と、学力テストの結果より習熟をよりすすめる必要のある内容の指導を繰り返す。学習材としては、東京ベーシックドリルの活用を中心とし、他に計算・文章問題も活用する。 ・計算問題のみを扱わず、思考力を問う問題も取り扱い、思考することに抵抗なく取り組めるようにする。 ・基礎タイムではタブレットでの学習はあえてせず、筆記による短時間学習に集中できるようにする。
授業	・全学年を通して、思考力を問う文章問題を毎回の授業で必ず取り組ませ、文章や図などを読み取る力、問題の解き方を身に付けさせる。 ・全学年を通して、全国平均を下回る単元や正答率の低い単元を中心に東京ベーシックドリルを活用し、指導を繰り返す。 ・全学年を通して、四則計算を日々反復練習を行い、毎回の授業で必ず取り組ませる。 ・ミライシードなど、学年の発達段階に合わせてタブレット内の算数学習課題に取り組ませる。 ・全学年とも、全学年までの内容で定着ができていない内容も把握し、必要に応じて反復練習に取り組ませる。
家庭学習	計算ドリル、プリントでの解き直し問題に取り組ませる。

4 理科

(1) 結果の概要と問題内容別正答率

4年	身近な自然の観察	植物の育ち方	昆虫の育ち方	昆虫の体	太陽と地面	光の性質	風やゴムの働き	音の性質	電気の通り道	磁石の性質	物の重さ	考察と具体的課題
正答率	63.8	84.5	71.6	76.7	61.6	47.7	87.1	83.6	64.7	59.5	75.0	全国平均より僅かに高い正答率に領域別ではなっている。身近な自然の観察の項目では、虫眼鏡の使い方の定着が6.9%低く、動かせるものと動かせないものの観察方法に課題があるといえる。また、ものの重さでは、形を変える前と変えた後では重さが変わらないことに対して理解が不十分な児童が6%であった。観察実験器具に関しては継続した器具の使用方の確認、物質の形が変わっても物体そのものの質量が変化しないことを様々な物質を用いて行う必要があったといえる。
全国平均	60.5	73.2	66.3	64.8	56.0	43.7	80.3	79.1	60.5	50.6	72.7	
増減	3.3	11.3	5.3	11.9	5.6	4.0	6.8	4.5	4.2	8.9	2.3	

5年	植物の成長	動物のようす	天気と気温	電気のはたらき	体のつくりと運動	月と星	物の体積と力	物の体積と温度	雨水のゆくと地面	水のすがた	自然の水	物のあたまり方	考察と具体的課題
正答率	51.3	48.8	43.8	51.3	55.0	69.2	45.0	53.3	58.8	42.5	27.5	62.5	全国平均と比べた領域別の正答率では、物質・エネルギー8.5%、生命・地球では、4.0%低い正答率となっている。特に、課題となっている単元は、「雨水のゆくと地面」、「水のすがた」(13.8%)、「物のあたまり方」(13.8%)であった。このうち「水のすがた」では、水を加熱したときの温度変化の観察、溶解したときの塩が水蒸気であることなど水の状態変化を実験を通しての理解が不十分である。そのため、説明が付きにくい無回答の児童が3割となり、無回答につながった。実験指導に関しては、モデル図の作成にとどまらず、再実験を実施してから知識相互の関連性を段階的につなぎ度や濃度が不足していたと考える。
全国平均	63.7	51.1	48.9	52.1	51.2	76.9	54.4	64.7	79.9	62.3	29.5	76.4	
増減					3.8								

6年	天気の変化	植物の発芽と成長	魚の誕生	花のつくりと実	流れる水の働き	人の誕生	ふりこのきまり	物のとけ方	電流のはたらき	顕微鏡の使い方	考察と具体的課題
正答率	43.2	56.2	77.0	45.9	53.2	63.5	29.7	35.1	53.2	29.7	顕微鏡の使い方については、顕微鏡の正答率では全国平均と比べ、物質・エネルギー8.5%、生命・地球では、7.0%低い正答率となっている。特に、課題となっている単元は「物のとけ方」(18.0%)である。「もののとけ方」では、物質が溶媒に溶かしても全体の水溶液の質量が変わらないこと、および飽和水溶液の形成に、溶媒の温度が関係していることについて、約4割の児童が無回答となっている。これは、3年生で学習した体積変化についての定着が不十分であること、1つの条件を調べるために条件制御の方法を思考する力が不足していることが原因と考えられる。したがって、6年生の「もののとけ方」から7年生の「水溶液の性質」に含まれる質量保存の法則の学習への接続において、課題があるといえる。
全国平均	51.0	68.4	82.5	57.9	67.6	75.0	37.6	53.1	54.9	35.0	
増減											

(2) 課題の原因として考えられること

高学年は、学習内容のつながりを理解することと既習内容の知識の定着が不十分であると言える。単元の導入段階で学習の見通しが十分に立てられていないため、単元の導入段階で学習の見通しが十分に立てられていないため、必要な観察・実験器具の選定、および調査に必要な条件制御の要素を事前に把握できていない状況にある。

(3) 課題解決に向けた方策(取組指標)

取り組む場面	方策
授業	・前年度の学習内容の確認を導入で行い、定着度の確認を継続して行っていく。誤概念をもっている場合もあるので、場合によっては前年度に振り返り観察・実験を行い、理科用語の確認、ご概念や理解不足の内容について知識・技能を定着させる。 ・正しい器具の使い方及び注意点について、その理由と共に繰り返し指導を行う。 ・実験や観察をする時にはタブレットPCで記録を残し、結果を繰り返し振り返ることができるようにすることで、知識の確実な定着を図る。 ・実験結果を学習課題と照らし合わせながら、整理・分析した上で考察し、学級全体で言語活動を通じて共有するようにする。 ・観察が長期に渡るものや、実験の結果が捉えにくいものについては、NHK for School等の映像教材を取り入れて、理解を深められるようにする。 ・各学年の発達段階に合わせた理科の問題解決の流れを教員が共通認識するとともに、児童に視覚的に提示し、どの単元においても同じ流れで指導を行うようにする。
家庭学習	・学習の見通しがもてるように予習を行い、理科用語などの知識技能の確認について、ミライシードやスキルテストを活用することで基本的な知識の定着を図る。 ・今回明らかになった課題については、プリント形式で問題の解き直しを行い、確実な定着を目指す。

5 英語科

(1) 結果の概要と問題内容別正答率

JTE(日本人英語専科教員)と担任とのチームティーチングによる連携が成果を上げている。「アルファベットの書き(聞く)」が全国平均を下回っており、「日常会話の理解」も増減値が0.9である。アルファベットの書きと、日常会話の理解に課題があると言える。

6年	単語の意味理解	アルファベットの読み	アルファベットの書き(聞く)	日常会話の理解	会話全体の理解	アルファベットの書き	単語の読み	英文の完成	英作文	考察と具体的課題
正答率	90.7	90.5	72.1	83.8	82.0	84.7	88.3	80.0	80.4	単語の意味理解やアルファベットの読みが正答率9割以上で、英作文も増減値が4.4であるため、日頃の指導の成果と言える。しかし、アルファベットの書き(聞く)や日常会話については定着が十分ではなく、反復練習が必要である。
全国平均	87.1	76.9	73.7	82.9	79.3	82.4	85.7	77.8	76.0	
増減	3.6	13.6		0.9	2.7	2.3	2.6	2.2	4.4	

(2) 課題の原因として考えられること

アルファベットの書きに関しては、アルファベットの太文字・小文字が十分定着していない。英語の音を聞いて文字を書く経験が少ない、フォニックス(音と文字の対応)の理解が十分でないと考えられる。一方、日常会話の理解に関しては、英語を最後まで集中して聞くこと、基本的な単語や表現、質問の意図を掴むことが課題である。聞こえた単語だけで判断し全体の意味を考える習慣を身に付けさせていく必要がある。また、アルファベットの音と文字を関連付ける力の定着が十分ではなく、聞いた英語を文字で表すことに課題が見られる。基本的な語句や表現の定着が不十分なため、日常会話を最後まで聞いて内容を理解する力に課題が見られる。

(3) 課題解決に向けた方策(取組指標)

授業	・アルファベットの音読・書き取りを繰り返す。 ・フォニックスを取り入れ、音と文字を結び付ける活動を充実させる。 ・日常会話で頻出する基本表現を繰り返し聞き、話す活動を増やす。⇒「Storyline Online」(子ども向け英語絵本を、俳優や著名人が読み聞かせる登録不要で無料のオンラインサービス)などを取り入れ、ゲームやペア活動を通して、聞いた内容に応答する経験を積ませる。 ・リタラシー学習の土台である音韻認識やフォニックスの指導は、担任とALTやJETが連携して指導にあたるのが不可欠である。引き続き連携を大切にしながら、学校全体で英語学習環境の整備を図るとともに、カリキュラムマネジメントを通して、横断的な教育展開に取り組むことが必要であると考えられる。
家庭学習	教科書の音声等を活用し、短い英語を繰り返し聞いたり、音声に続いて発音したりする活動が有効である。また、アルファベットを見て書くだけでなく、文字の名前や音を聞いて書く練習を取り入れる。日常的な質問と応答を親子で行うなど、短時間でも継続して英語を聞いたり話したりする機会を設けることで、基本的な語句や表現の定着と会話理解の向上を図る。デジタル教科書を用いて音声を聞いたり会話練習を促す。